

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 4 日作成)

小委員会名	上階延焼検証小委員会	主 査 名：吉岡英樹 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	防火本委員会	委員長名：萩原一郎
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・独自モデルを組み込んだ新しい CFD ツールを作成し、上階延焼検証に応用させることで検証精度を高め、建築物の外壁開口部を介した上階延焼の発生に係る予測・抑制技術の向上を図る。 ・2017 年度： 上階延焼検証に有効な CFD モデルに関する情報収集及び基礎的オペレーション ・2018 年度： 独自モデルを組み込んだ FireFOAM ツールによる可燃性外装の燃焼に係る詳細検討、及びシンポジウム「高層建築物における可燃性外装の燃えひろがりについて考える」の開催 ・2019 年度： 簡易な燃えひろがり性状予測ツールの開発、及び JISA1310 ファサード試験、ならびに FireFOAM ツールとの比較検討	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：吉岡英樹 (国土技術政策総合研究所) 幹事：中村正寿 (大成建設)、村岡宏 (大林組)、森田武 (清水建設) 委員：大宮喜文 (東京理科大学)、野秋政希 (建築研究所)、西尾悠平 (東京理科大学)、中村美紀 (建材試験センター)	
設置 WG (WG 名：目的)	無	
2019 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無
講習会	無
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無
大会研究集会	防火部門 研究協議会「防火基準のモデルコードをつくりたい」において吉岡主査が主題解説「材料分野の視点から」を行った。
対外的意見表明・パブリックコメント等	無
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 表計算ソフト (Microsoft Excel) で計算可能な燃え広がり予測ツールを開発し、2018 年度の建築学会大会 OS において報告された各種実験データ (コーンカロリーメーター試験、JISA1310 ファサード試験における木質材料の燃焼実験データ) との比較検証を行った。(達成度 90%) 2. 2019 年度建築学会大会においてオーガナイズドセッション「外壁部材の耐火性能と燃えひろがり性状」を実施した。(達成度 100%) 3. 「防火材料ハンドブック」の改定作業に協力し、上階延焼検証小委員会の活動内容に関連する章節項について原稿執筆を行った。(達成度 80%)
委員会活動の問題点・課題	特になし。